



三川合流点は地域の宝、自然を残し、次代へつなげて

新潟水辺を考える会・高橋正良

白根市の北部、鷺ノ木水門付近は中ノ口川、信濃川、鷺ノ木大
通川の三つの川が合流する場所です。

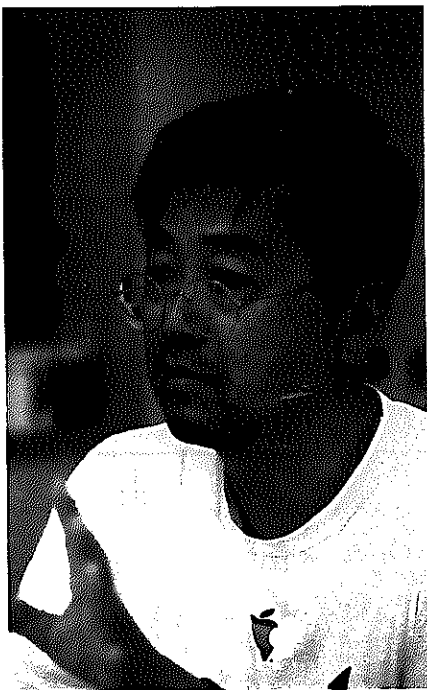
この付近には、たくさん生物が住み、自然が豊かな所。「新潟
水辺を考える会」会員で、付近の自然に詳しい高橋正良さん（新
潟市）に、その素晴らしさを伺いました。

合流点は自然が豊かな所。
少し手を加えれば
地域の宝に

一年に何回か三川合流点を訪れている
そうですが、最近変わったところは？
高橋 合流点は、年に一、二度見て
回っていますが、ごみが多くなってき
ましたね。釣り人が捨てた針や糸が
鳥の足に絡まって、足がもげたり、ひ
どい場合には動けなくなつて死んでし
まったりしています。釣り針ごと捨て
てあるえさを食べてしまい、死んでし
まうことも。都市部から近くて、こん
なに自然が残っている所なのに。訪れ

る人が自然の素晴らしさを認識してい
ないんですね。
—三川合流点は貴重な場所と聞いてい
ますが。

高橋 一九九三年の調査では、大河津
分水から下の信濃川下流部全体で、八
十八種の鳥が生息していました。この
うちの約五九%にあたる五十二種が合
流点で確認されています。えさとか隠
れ家とか鳥が暮らすのにいい条件があ
るから多いんでしょうね。この五十二
種の中には、環境庁の希少種を記録した本
の中に含まれるコアジサシやコハク
チョウなども確認されています。それ
から、オオハクチョウが上空を飛ぶこ
とも確認されています。これは、県庁



高橋正良・新潟水辺を考える会
水辺を考える会は、新潟市や白根市などの
会員150人からなる市民グループ。水と親
しみ、学習しようと年に数回、イベントや
学習会、観察会などを実施している。

わきをめぐらにしていますが、白根
だつてアシ原を保全してやれば、住み
着く可能性が有りますね。

生物の種類が豊富だということが、
自然度の豊かさの基準になります。生
物が多いということは、生物のすみか
やえさとなる植物が多いということ
で、補完し合えるということですから。
こういうことでも、生物にとつて環境
の良い所だということがお分かりいた
だけだと思います。

川の流れを
生かした整備を

でそこに生息している状態をビデオ
プといますが、それがきちんと保全
されています。そういうふうに、連続
した系が何キロも続いて黒埼町の方か
ら、中ノ口川、鷺ノ木大通川へとつな
がっていきます。そして鳥などが合流
点へも飛んでくるわけです。
三川合流点は放っておくと、ごみを
捨てられたり車がどんどん入ってきた
りして環境が悪くなる可能性もありま
すが、保全して、やたらなものをつく
らずに、ちょっとだけ手を加えてあげ
れば、市民の憩いの場になる。うまく
手当をすれば、白根の宝になる
と思います。

—どの程度まで手を加えればいいんで
しょう？

高橋 自然公園なんか造ってしま
うと、その後の管理で余計な手間やお金
がかかってしまう。整備するとしてら
そのへんも考えなければ。大堤防で守
られた範囲内で、治水上問題ない所
であれば、川はある程度流れに任せても
いいんじゃないでしょうか。自然は
放つたらかしても十分です。三川合流
点にしても、地形や特性を考えた上で、
手を加える範囲を決めて、川の持つて
いる潜在能力を引き出してあげるよう
な手当ての仕方です。ことですね。ワ
ンドを作るとか、乱杭を打つとかね。
そうすれば、生物はもつと増えるで
しょうね。

—整備されると人が出入りするよう
になりますか、問題はありますか？

高橋 人が出入りすると、問題はごみ
ですね。でも、ごみ箱は置かない。管
理費もかかるし、野放図になってしま
う。ごみを持ち帰ることでしょうね。
北海道大学畜小牧演習林内には札内
川という川が流れています。以前は汚
い川だったそうですが、小さい橋を幾
つも架け、ワンドを作つたりして自然
に近づけていくことで、川はきれいに
なり、生まれ変わりました。演習林は
市民に開放されていますが、ごみはほ
んど出ていません。近所の幼稚園の
子供もお弁当を食べにきますけどね。
みんなごみを拾っていきますよ。

白根に住んで良かったと
思える自然を
次代に残して

—市民の認識が、川を変えてしまつた
ということですか。白根の三川合流点
もそんなふうになるといいですね

高橋 あの場所とはとてもいい場所
ですね。三つの川が合流していること
だけでも珍しいんです。地域の宝です
ね。もうちょっと掘り起こしてもいい
んじゃないかと思えます。

白根市の今後の発展を考えた場合
に、あの場所を保持していかれるかど
うかというのは、大きいですね。白
根市は人口がどんどん増えています
が、新しく越して来た人たちは白根市
民だという帰属感あんまりないわけ
ですよ。土地が安いから越してくるだ
けという人が多いんですね。そこに
住む人がそこで子供を生み、育て、暮
らしていくときに、未来に一体何を残
すのか。都市部に自然と本当にふれあ
う場所を残しておけるかどうかが大切
なポイントになります。

白根市は平坦な土地ですが、晴れた
日には遠く山までを望め、田んぼで
米を作り、暮らし、果樹を作る。そん
な土地で生まれて良かったと思わせ
るような自然を残し、保つていつてほ
しいですね。自然を大切にすること
は、白根市全体がどういうふう
に変わっていくのかというテーマの
一つですね。それは市民の意識にか
かっているととてもいいと思います
よ。

三川合流点の自然を
復元する整備を

水辺環境調査事業全体整備構
想市では、自然や伝統文化などの
地域の特性を生かしたまちづくり
の計画(H.O.P.E.計画)を策定し、
現在、実施に向けて取り組んでい
ます。その計画の一つである「水
辺環境の整備」のため、三川合流
点の自然調査を実施。全体整備構
想が、このほどまとまりました。

調査には、「行政と市民が共に
意見を出し合い、よりよい整備を
考えていこう」と専門家だけでな
く、計画推進委員や周辺住民など
も参加。現地を視察するなどして
整備の基本方針が策定されました。
整備構想のねらいは、自然を復
元し、親しめるような場所にする
こと。これに基づいて打ち出され
た基本方針に沿って、今後合流点
の整備が進められる予定です。



合流点を見て回る計画推進委員

